

「乳幼児突然死症候群（SIDS）チェック表の記入の仕方」

1. 健康観察のチェックの仕方

預かりはじめと、午睡後や夕方などに検温し、特記事項の欄に検温した時間と、体温を記入する。

預かり時、5つの保健的な項目（機嫌のよし悪し、鼻汁の有無、目やにや充血などの有無、皮膚（湿疹、発疹、ひっかき傷やアザ）の状態、咳の有無）を中心に、健康状態について保護者から情報を得、自分でも確認し、チェックを入れる。

2. 睡眠時呼吸のチェックの仕方

仮眠・午睡を含めて、呼吸をしている事を確認し睡眠時間に丸を記入する。タイマーなどを使い、5分間隔で行う。

入眠を確認した時刻の横に「入」を入れ、目覚めを確認した時刻には「めざめ」、あるいは、保護者に頼まれるなどで起こした場合は「起こす」などと記入し、睡眠最終時間とする。

睡眠中に咳など変わった様子がみられた場合は、その症状を特記事項の欄に記入する。

SIDSへの対応はうつぶせ寝は避け、寝ている赤ちゃんの体に保育者の顔を近づけてお腹と胸が上下に動く様子を観察する。厚着をしている時は呼吸の確認がしにくいので、くすぐる、体をマッサージすることも良い。

乳児窒息死予防もうつぶせ寝は避け、吐乳、溢乳、寝具のすきまに挟まる等の寝具環境、よだれかけは紐が絡まるので外すなどに注意して観察する。

SIDSも乳児窒息死も風邪症状や体調不良の時に起こりやすいので、健康観察欄を一体的に活用し、一緒に予防する。

乳幼児突然死症候群（SIDS）チェック表は、最後に呼吸を確認した時間や注意深く保育していたかどうか等の記録となる。記入は消えないボールペンで正確に行う。